

学位論文に関するチェックリスト

提出する学位論文が以下の必要項目を満たしているか確認し、申請者および指導教授署名の上で提出してください。

	チェック項目
<input type="checkbox"/>	3年以内に倫理教育を受けました。 ^{※1}
<input type="checkbox"/>	人を対象とする研究の場合、研究内容は倫理委員会の承認を受け、研究責任者または研究分担者として学位申請者の名前が入っています。 ^{※2} 動物を対象とする研究の場合、実験を行った研究機関の動物実験の規定を遵守しました。
<input type="checkbox"/>	研究活動の不正行為への対応のガイドラインを遵守しました。 (https://www.next.go.jp/b_menu/shingij/gijyutu/gijyutu12/houkoku/06082316.htm)
<input type="checkbox"/>	研究ノート、(該当する場合は)CRF(症例報告書)は記載し、保管しています。
<input type="checkbox"/>	International Committee of Medical Journal Editors(ICMJE)が策定した。 オーサーシップのガイドラインを遵守しました。(http://www.icmje.org/)
<input type="checkbox"/>	学位論文(THISIS)は単著となっています。 (主論文 ^{※3} に共著者がいる場合)共著者リストを作成し共著者からの同意書を受け取っています。
<input type="checkbox"/>	利益相反に関する事項を開示し、必要に応じて審査を受けています。
<input type="checkbox"/>	審査を受ける論文は、別添「書き上げ論文について」の要件を満たした書き上げ論文です。
<input type="checkbox"/>	【甲論文該当者】学位授与後1年以内に論文全文を学内リポジトリ等で公表する必要があることを承知しています。 ^{※4} やむを得ない事情により掲載を希望しない場合は理由を添えてその旨を申し出ます。
<input type="checkbox"/>	【乙論文該当者】提出した学位論文が学内リポジトリに掲載されることを了承します。

※1 倫理教育の修了書を添付すること。

※2 倫理委員会の承認通知書および研究倫理審査申請書(研究責任者・分担者が分かるもの)を添付すること

※3 「主論文」とは既に学術雑誌等に公表されている論文を指します。

※4 学術雑誌等への投稿前に学内リポジトリに全文を掲載すると、論文公表済みとみなされる可能性があります。その場合、学術雑誌等への投稿が不可となる可能性がありますので注意してください。

上記の内容に虚偽はありません。学位授与後に上記の内容に虚偽が判明した場合、学位取り消しとなる可能性があることを理解しています。

年 月 日

申請者署名 _____

学位論文の最終稿を確認し、上記の内容に虚偽がないことを確認しました。

また、学位論文の内容に責任を負うことを理解しています。

指導教授署名 _____

書き上げ論文について

学位論文は書き上げ論文である必要があります（「学位論文の申請要領」参照）。

書き上げ論文とは、学位論文用に書いた論文のことです。

通常の学術論文は専門の雑誌に投稿され、専門分野の先生が査読・購読するため、背景等を省略しても理解してもらえます。一方学位論文は、専門外の人にもわかるようにする必要があります。そのため、緒言、方法、考察などについてより詳細に記述する必要があります。

また、学位論文は、学位授与の可否の判定において、研究者の研究遂行能力や理解の程度を判断する主要な材料となるため、以下に挙げた内容が論文中に明確に記述されている必要があります。（内容が含まれていれば、箇条書きにする必要はありません。）

すでに **publish**、**submit** された内容である場合も、以下の記述を加える必要があります。

緒言

(1) 研究の学術的背景（なぜその研究を行うに至ったか）

(2) 研究課題の核心をなす学術的問い（仮説）

(3) 研究の学術的独自性

(4) 当該研究デザインを採用した理由

について具体的かつ明確に記述する。

本研究に至る前の予備実験の結果があれば、煩雑にならない範囲で加える。（自らが中心となっていたものであれば、簡単にでも方法～結果に加えることが望ましい）

方法

研究目的を達成するための研究方法について、焦点を絞り、具体的かつ明確に記述する。

その分野の基本的な素養と必要な設備があれば、原則として再現可能な記述とする。

専門外の人でも分かるように、適宜図、表、フローチャートを用い、文献を引用しつつ述べる。

結果

考察で使われるデータは、すべて結果で述べる。

ネガティブデータも、主要なものについては少なくとも図表などで述べる。

図や表は分かりやすく。

考察

緒言を受けて、仮説に対しどこまで分かったかを述べる。

仮説が証明されなかった場合には、その理由を考察し、それを確認するためにはどのような実験を行うべきか、なぜ追加で実験を行えなかったかについても述べる。

自分の研究の限界を述べる。

研究活動の不正行為とは

杏林大学等でも用いている、研究倫理教育教材 **APRIN** では、研究不正行為について次のように説明しています。

研究者として、これらは決して行ってはならない行為です。

自分の研究がこれらの行為に該当しないことを確認し、万一該当する場合は報告して下さい。

対象とする不正行為は、故意又は研究者としてわきまえるべき基本的な注意義務を著しく怠ったことによる、投稿論文など発表された研究成果の中に示されたデータや調査結果等の捏造、改ざん及び盗用である（以下「特定不正行為」）。

捏造とは、存在しないデータ、研究成果等を作成すること。

改ざんとは、研究資料、機器・過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること。

盗用とは、他の研究者等のアイディア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語を、当該研究者の了解又は適切な表示なく流用すること。

ここに示した「研究における不正行為」の定義は、他府省も含め、日本のほぼすべてのセクターが使用しています。

なお、**2006**年版ガイドラインでは、「故意によるものではないことが根拠をもって明らかにされたものは不正行為には当たらない」という前文がありました。つまり、間違いや考え方の違い（例：データの読み取り方の違い）によるものは、「研究における不正行為」ではないとされていたのです。しかし、**2014**年改訂版では、「故意又は研究者としてわきまえるべき基本的な注意義務を著しく怠った」場合は、「特定不正行為」とみなすと修正されています。

オーサiershipのガイドラインとは

以下の、APRIN の e-learning からの抜粋を参考にしてください。

共著者がいる場合、その人達もこの基準を満たす必要があります。

ICMJE の規定では、オーサiershipのルールについて、次のように述べています。

論文著者として名前が掲載されるためには、以下の 1) ～4) のすべての項目に該当していなければならない。

- 1) 研究の構想・立案、データの収集、あるいはデータの解析および解析結果の解釈のいずれかに実質的に貢献している。
- 2) 論文の原稿を書くか、その論文の内容に関わる極めて重要な校正・改訂作業（リバイズ）にかかわっている。
- 3) 掲載される最終版の原稿の中身を理解し、承認している。
- 4) 論文のあらゆる側面について、論文の正確性・真正性に疑義が寄せられたときに適切に説明することができる。

著者として記載された者は著者としての資格を満たさなければならないし、また、資格を満たしている者はすべて著者として記載されなければならない。